

島松だより

Vol.31

題字・絵／田川 正悦



日本キリスト教団
島松伝道所

〒061-1351

北海道恵庭市島松東町4丁目1-8

牧師／辻中徹也・辻中明子

電話・FAX／0123-36-7275

<http://homepage2.nifty.com/simamatu/>

それどころか、体の中でほかよりも弱く
見える部分が、かえって必要なのです。

コリントの信徒への手紙 ― 12.22

なぜ建築か

「町へひらいていくワクワク感」 牧師 辻中徹也

教会を町へひらいていくワクワク感

礼拝堂の横に細長い建物があります。お世話になっている建築家の畠中秀幸さんは「付属建家」と呼び、この関係

覆われた空間が生まれました。会堂使用の希望も増えました。油絵、コース、お泊まり会、保養、他教会からのCSキャンプ、恵庭9条の会、ゴスペル・クワイヤーなどです。加えて「木の教会コンサート」「こころの講座」「島松音楽まつり」などを開催して来しました。教会が町へひらかれていくワクワク感を楽しみにして来しました。

雨漏りから再び歩み始める
1 昨年あたりででしょうか。牧師館も礼拝堂も雨漏りがありました。コーキング材を買って来て修理はできたものの、傷んでいる箇所を応急工事することにしました。工事は去年の秋とこの春に行いました。地区、教区からもご

内装工事をしました。私たちは「再生」と呼んでいます。天井を抜き、三角屋根を支えている梁を内側に入れ、音を拡散して響きを良くするルーバーを壁面に施しました。通常の工事では脇役の資材を主役にし、天井高くまで木で

支援を頂きました。今年6月にうどんミーティング（教会宣教協議会）を開きました。「ちよぼちよぼと手を入れるのでなく一機にやろう」「図面と見積もりを出してもらおう」という意見が出て、その方向で役員会は動き始めました。教会の要望をお伝えし、7月に畠中さんを囲む会、8月に図面と見積もりの提案、9月にもう一度、うどんミーティングと進んできました。

原発ゼロの太陽光発電は形を変えて

私たちの要望が少しずつ図面になってくるなか、中身を決定する前に、建築をする意思を確認する臨時教会総会を11月3日（日）に行いました。全会一致で、会堂再生（付属建家）・牧師館建築について賛成の決議がなされました。残念だったことは、教会の大屋根に太陽光発電のパネルを設置したいという要望が構造的、費用的に難しく断念せざるを得なかったことです。

なぜ建築かと問いかけるときに、原発ゼロを心底願う一つの実践をあきらめなければなりませんでした。

地域という里山の一つのスポット

原発ゼロは違う形で取り組みを模索して行くしかありません。ある方から「里山資本主義」という本を薦められて読み始めました。誰にでも開かれていて、その人にとつては宝となる樹々などであふれていて、「マナー」から人を取り戻す「里山」について書かれています。わたしたちは「弱さを元手に「ひだまり」はじめます」と歩んで

いますが、弱さが元手になることが「里山」的だなと思います。そして、教会が町へひらかれていくことをワクワクして待ち望むとき、教会が地域という「里山」の一つのスポットとなることを嬉しく思っていることに気づきます。

ひだまりが集まった里山へ

教会は神と人、人と人が出会う場所です。私たちはそこに向つて一週を歩み、そこへ帰って礼拝を捧げます。神の言葉を聴き、讃美と祈りを捧げ遣わされて個々の持ち場へもどつて行きます。建築はその場所を整えることでしよう。そしてその場所を町へひらいていくことでしょう。「ひだまり」が集まった「さとやま」ハイメーじは広がります。



特集 島松会堂建築物語 —第4章—

～弱さを元手に、こんな “ひだまり” 始まっています～



照明設備がついた十字架！

はじめに

三年ぶりの島松会堂建築物語をお届けすることになりました。第四章です。

礼拝堂部分の再生、隣接地購入の後、ワークでペンキ塗りや木道作りをしながら祈りつつ温めてきた会堂再生の続きと牧師館建築の夢ですが、ついに十一月三日、臨時総会にて、取り組むことを決議いたしました。まだ具体的な報告はできませんが、皆様にはお祈りのうちに覚えて頂ければ感謝です。

この第四章では、私たちが大切にしていること―“ひだまり”を実現していくハード（建物）と共にソフト（活動）―と言う意味で、会堂を活用しておられる“ひだまり”の仲間からの声をお届けしたいと思っています。どのような思いや感想を抱いておられるのか、一緒に聞かせていただきたいと思います。

そして“ひだまり”の声に励まされ、導かれながら次の歩みへ向かいたいと思います。

島松伝道所役員会

「島松教会との出会い」

VOP 榎田 真理子

恵庭に住み始めて、二二年が経ちました。仕事と子育てをしてきた私にとつては、恵庭は仕事場の顔と母の顔を

持つ私が暮らす場所でもありました。長い間、自分の世界を広げることに躊躇していた私が、六年前に意を決して始めたのがゴスペルでした。その練習場所として出会ったのが島松教会です。大学の頃からチャペルには時々通っていたので、教会へ習い事をしに行くことに疑問はありませんでしたが、初めて入った時はパイプ椅子であることに、少し驚きました。それまで私が知っていたチャペルは堅い木の長椅子が整然と並んでいる荘厳な雰囲気のところだったからです。しかし却って、その小さな教会の手作りの温かい雰囲気初心者の私をやさしく迎え入れてくれました。



それ以来、私にとっては自宅以外に自分を開放できる場所として島松教会を利用させてもらっています。神の言葉を音楽にのせて口ずさみながら、自他を励まし、またある時は一日を振り返り、人を許し、感謝する。そして生きている喜びに浸る。Voice Of Praiseのメンバーと共に過ごす島松教会の二時間あまりの時間は、まるで美酒に酔う至福の時（わたしだけかもしれない）となっているのです。こうして考えてみると、島松教会が私たち

を受入れてくれたから、私が今までゴスペルを続けてこられたのかもしれない。これからも私が私であることを許してくれる場所として居て欲しいと願っています。

「神様はすごい」

東広島教会 二宮 伸治

八月二三日から二五日の三日間、かつて東広島教会で共に信仰生活を歩ませていただいた辻中ファミリーの居られる島松伝道所を訪問、宿泊させていただきました。懐かしい方々と会うため、とりあえず行ってみよう！という軽いノリで訪れた島松伝道所。豊かな木々に囲まれた静かな佇まいは、温かさとなぜか懐かしさを感じさせる雰囲気満ち溢れていました。

辻中徹也先生との会話は、昔から一緒に潜航艇に乗り込んで心の深みへ潜航するような独特のわくわく感がありました。その雰囲気は今も変わらず、明子先生のアットホームな雰囲気とあわせて、本当に楽しい時間を共有できました。感謝です。合同礼拝や当事者研究にも参加させていただき、豪快なジンギスカン、おいしいアイスクリームと本当に北海道を満喫させて頂きました。お会いした全ての方々に感謝です！

今回の訪問で一番驚いたのが、辻中ファミリーの啓太君が、臨床工学技士を目指してがんばっていることを知ったことです。私も臨床工学技士養成校で教鞭をとっているのです。「これは

何かお手伝いできるのでは？」と舞い上がるような気持ちを抑えることができませんでした。実は二年ほど前に、啓太君は突然私達の住む東広島市に現れ、共に楽しい時間を過ごさせていだきました。その時、自分の生きる道を真摯に求めている若者に対して、私のような大人にできることは本当に少ないな、でも何かお手伝いできればとお祈りしたのを思い出し、「神様、つてすごい！」と心から感謝した次第です。

遠く離れています、辻中ファミリ―と島松伝道所の皆様と共に、これからも歩んでいきたいと思えます。感謝と共に、アーメン

当事者研究の仲間からの声

NPO法人 コミュニット

楽創 ホワイストーン

村田育洋（やすひろ）

昨年、島松伝道所で当事者研究を辻中牧師と一緒にやっています。見ず知らずの人同士でも、思い思いの時間を過ごしたりつながりをもてたりする、あたたかい居場所を作れたらという思いが私の中にあり、まずは当事者研究という道具を使ってそういう場所を作れないかと思って協力者をずっと探していました。昨年の秋に浦河べてるの家の向谷地生良先生から辻中牧師を紹介され、場所を得て、活動を始めたところです。当事者研究は弱さでつながっていくものです。自分を大切にすることや、自分の権利つ

てなんだったのか思い出させてくれます。心地よさや居場所や欲しかった何かを取り戻せるものです。

みなさんの協力のおかげで一年活動することができました。居るだけで良い場所があつて、そこで高校生から障がい者から定年退職した方からシングルマザーなど、様々な人が出会って経験が深まり何かが生まれるのは素敵だと思います。どんな時でも必要とされる場所だと思います。細々とでも続けられれば素敵だと考えています。



最近
は夜にや
るよりも
昼間にゆ
つくりと
安全が担
保された
なかで行
うのが、
出会いが
深まって
いいなあ
と勝手に
確信して
います。

次は十二月十四日十一時三十分から午後三時三十分です。また昼間にカフェをして、当事者研究をするか、WRAP（元気回復行動プラン）をやりたいなど。次はピザ作って食べたいな、とか思っていたりします。今後とも活動を応援してください。

よろしくお願いします。

島松建築決議への歩み！

① 傷んだ所にちよこちよこ手を入

れるのではなく将来型を描いて

一気に行う。

② 図面と見積もりを出して頂く。

③ 再生工事を手がけて頂いた島中

秀幸氏（スタジオ・シンフォニ

カ社）に主要要望を伝え、提案

を受け、役員会とうどんミート

ィングで説明会を行った。

④ 内容は、付属建家のリフォーム。

⑤ 礼拝堂二階納戸を執務室兼ギャ

ラリー席に。牧師館を移築し、

⑥ 会堂が通から見えるように。

⑦ 付属建家の増設部を牧師館と呼

⑧ 応するデザインに。樹木の剪定

⑨ など。

⑩ 資金計画の検討。

⑪ 十一月三日（日）臨時教会総会

⑫ 会堂再生・牧師館建築に取り組む

⑬ ことを決議した。

⑭

⑮

⑯

⑰

⑱

⑲

⑳

㉑

㉒

㉓

㉔

㉕

㉖

㉗

㉘

㉙

㉚

㉛

㉜

㉝

㉞

㉟

㊱

㊲

㊳

㊴

㊵

㊶

㊷

㊸

㊹

㊺

㊻

㊼

㊽

㊾

㊿

0

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

18

19

20

21

22

23

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

46

47

48

49

50

51

52

53

54

55

56

57

58

59

60

61

62

63

64

65

66

67

68

69

70

71

72

73

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

84

85

86

87

88

89

90

91

92

93

94

95

96

97

98

99

100

101

102

103

104

105

106

107

108

109

110

111

112

113

114

115

116

117

118

119

120

121

122

123

124

125

126

127

128

129

130

131

132

133

134

135

136

137

138

139

140

141

142

143

144

145

146

147

148

149

150

151

152

153

154

155

156

157

158

159

160

161

162

163

164

165

166

167

168

169

170

171

172

173

174

175

176

177

178

179

180

181

182

183

184

185

186

187

188

189

190

191

192

193

194

195

196

197

198

199

200

201

202

203

204

205

206

207

208

209

210

211

212

213

214

215

216

217

218

219

220

221

222

223



証し

「神さまが私を
とらえてくださった」
ゴスペルとの出会いから
伊藤 周子

ゴスペルとの出会い

12年前のこと。「ゴスペル、一緒に習いませんか？元気でますよ！」同僚の音楽の先生に声をかけられた。

「歌なんて無理だよ」という私を、何度も誘ってくれたのは、もしかしたら私が暗い顔をしていたからかもしれない。私はそのころ、家族と心が通わず、悩みをたくさん抱えていたが、レッスンに行ってみて、ゴスペルのリズム感や歌の楽しさに、思わず引き込まれていった。肩の重荷がすっかりとれたような気がした。ゴスペルは「神様」のことを歌う歌だということも、そこで初めて知った。今のゴスペルの師匠であるなつきさんとの出会いの時でもあった。毎週、クラップしたりステップ踏んで思いっきり声を出していると、心の底から元気になった。アメリカの黒人奴隷たちが、過酷な境遇の中で、神様に感謝し歌い踊ることで生き抜く力になったとか、アメージンググレイスが、奴隷船の船長によって作られたというのを聞き、ますます、とりこになり、教会にいつて神様のことを聞いてみたいという思いがわいてきた。もちろん、苦しさ、もやもやとしたものが、教会という場所に行くことで、少しでも軽くなればという期待もあった。

神様との出会い

島松伝道所の礼拝に初めて参加したとき、壁にあった言葉に目が釘付けになった。「人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。」から始まるルカによる福音書6章37節のあの有名な言葉。この言葉は今私の

ためにここに用意されたのか、と思うぐらいびつくりした。そう、私はいつも人を裁いているのではないか。あの人が悪い、私は正しいのに。こんなにしてあげてゐるのにと。でも実はうすうす気づいていた、それが自分の苦しみの原因だということに。だけど、向き合わず逃げていた自分の傲慢さをつきつけられた瞬間だった。涙があふれてきて文字がぼやけてきても、そこから目を離すことができなかった。神様が私をここに呼んだのだ、と心から思った。そして、島松教会の温かい雰囲気にも誘われて、2人の子どもを連れて通うようになった。

週1回の聖書を学ぶ会にも行くようになり、どんどんとイエスという方に魅せられていく。教会では、他の人のために祈る姿に驚いた。私は自分が苦しいから救われたいと祈っているだけだった。祈りつてなんだろうと真剣に考えた。洗礼を受けては？と言われた時には、神様が私をとらえてくださったのだと素直に思えたので、迷うことはなかった。そのころ夫は単身で家を離れ、仕事をしていた。子供たちは、夜寝る前に「パパが元気でいますように。早く帰ってきますように！」と祈っていた。また北海道で仕事をすると決まった時には、「ママ、神様って本当にいるんだね！」と興奮して叫んだことを思い出す。

家族や仲間を支えられて

ゴスペルでは息子は1年間、娘は大学に入るまで10年近く一緒に歌ってきた仲間である。夫もコンサートを手伝

ってくれ、母や義父もコンサートに来てくれ、「よかったよ！またうまくなったね！」と必ず褒めてくれた。一時期、心が通わなかった家族をゴスペルがつかないでくれていた。また、10年以上二人三脚でゴスペルグループを支えてきた友人との出会いも大きい。キリスト教の常識、地区の歴史、教会の事情など、ことあるごとに教えてくれる事務的な仕事も手際よくこなし、コンサートの企画もバリバリ行ってくれる彼女がいなければ、こんなにゴスペルを続けることもできなかっただろう。

島松伝道所とゴスペル

新しいグループが結成され、またなつきさんの指導を受けるようになった。レッスンでは、どんなふうに神様への賛美をささげるのかと、いつも問われているような気がする。私にとつて歌うことは祈ることであると素直に感じるようになってきた。レッスンはここ島松が会場だ。みな、来るとほっとすること本當にうれしい。レッスンの合間の明子牧師のメッセージもみんな、真剣に耳を傾けてくれる。レッスンが伝道の時となっていることもうれしい。教会の礼拝や行事に参加してくれるメンバーもいる。島松伝道所に人が集い、教会を身近に感じ、神様と出会う人がふえたらうれしい。

ゴスペルがあったから、私は神様と出会うことができた。そのことに感謝して、教会の生活もゴスペルの生活も大事にしていきたい。

竹田玉江さんと偲ぶ

本岡浩気

竹田玉江さんの訃報を知った時、真つ先に脳裏に浮かんだ言葉があった。

「私はお父さん（和夫さん）よりも先に死ぬことはできない。お父さんは身の回りのことは何ひとつできない人だから、ひとりにすることはできない…」



遠藤宗夫兄を偲んで

苦小牧弥生教会

佐伯嘉美

遠藤君との出会いは、夕張同郷の友人T君を通じて札幌教会の礼拝に行つて初めて遠藤君に会いました。風呂敷包みの聖書、髪は七三、スーツとネクタイ姿で私より



生前の玉江さんの口癖であった。

私が竹田夫妻と出会ったのは、27年前の春だった。和夫さんが私の上司として、知床羅臼の職場に赴任した。

やがて竹田家で夕食をご馳走になることが日課となった。和夫さんが酔い潰れて眠ってしまうと、食器を洗い終えた玉江さんが私の話し相手になった。曲がったことが嫌いな人だった。誰にでも臆することなく筋を通して、自分の意見をはっきりと伝える人であった。幼少時やその後の苦労話をよく聞かせてくれた。当時の苦労や困難が玉江さんの品性を育んだのだと思う。芯の強さとともに心の貧しきものに優しい人だった。玉江さんの人格と生き様は、聖書そのものであった。ご冥福をお祈りします。（昨年12月10日召天 84歳）

随分大人に見えました。つむじの髪がピンと立っていたことを記憶しています。優しくかつ控目の印象でした。

3人の付き合いはそこから始まり、私は2人の助言もあつて、その年のクリスマスに受洗しました。その後三人は仕事で離ればなれに、年賀のあいさつもなくなりしました。20年前、教区年頭修養会で再会を果たし、その後一度だけ我家を子供連れで訪れ、食事を共にしたことを思い出します。昨年、突然の訃報に接して島松教会員だったことを知りました。同地区内の兄弟同士だったのに！悔やんでいます。遠藤兄の人格は信仰によるもので、その信仰は教会や家族そして私にしっかり受け継がれていることを今、改めて確信しています。（昨年12月30日召天 67歳）

よういっそ！ 新しい仲間です！

佐藤菊雄です！

伝道・牧会50年を機にこの3月隠退しました。神学校卒業後7つの教区で9つの教会に遣わされて働くことが出来ました。多くの建築に関わりました。9棟の建物の建築に携わりました。会堂2、牧師館3、幼稚園舎2、記念ホール1、トイレ1などを建てました。新しい礼拝堂での最初の礼拝を守った喜びと感動は格別なものがありません。新しい牧師館に3回も入りました。

隠退後の生活の場をどこにしようかと思ひ巡らし、在任中関係しなかった教区・教会へ、出来るだけ遠くに住むことを願い北海道恵庭市に移住しました。

少し早起きをし、農場のとうもろこし畑で収穫の手伝いをしました。島松伝道所の「しままつ野菜だより便」の一つです。箱詰めにし、お便りを入れ、クール便で発送しました。全国の朝もぎトウキビを待っていて下さる方々に思いを添えての発送です。この仲間に加えられ、礼拝を共にしています。



佐藤待子です！

今年の4月から島松伝道所の仲間に加えていただきました。岡山県倉敷市から恵庭市に転居しました。

何年か前から「島松だより」を楽しみにして読んでいました。野菜セツトもうれしく待つていました。次第に北海道に住民みたいという思いが膨らんで、導かれてやつて来ました。

教会によつては「…ねばならない」に苦しめられることもありましたが、ここではそれがありません。「弱さを元手に」スローワークを楽しみ、苦勞を分かち合い、その人がその人としての居場所があります。

ます。北海道に移り住んでから「心と体の中心点行方不明症」になったわたしですが、広い空、暖かい心、ゆつたりした雰囲気、居場所を与えられています。「ひだまり」にどっぷりつかっていたいと思っています。どうぞよろしくお願いします。

若者による福音書 第1章

僕は今

伊藤 快太

僕は今、静岡県大学の大学に通っています。大学生活、めちゃくちゃ楽しいです。海洋学部環境社会学科というワンダフルな学び場で毎日楽しんでいます。学校の裏は海、家から10分で海、最高です。サークルは水棲環境研究会、ウインドサーフィン、釣魚部、バスケットボールがあまりからず自由参加なサークルを掛け持ちしています。その他にも釣り好きでクレイジーな人たちが集まってできた「釣りなう。」で釣りしたり遊んだりし

ています。

勉強面ではかなり苦労していて、レポートや課題はいつも友達に教えてもらってなんとかやっていきます。海洋系の講義は面白いです。2学期目はもう少し真面目に取り組もうと思いました。船の上で1泊2日する海洋実習はとても楽しい2日間でした。次の大きな行事は海洋祭です。海洋祭では水棲環境研究会はいくつか水槽を展示することになっています。僕はタツチプールの展示する班なので水槽の木枠づくりや生物採集をしています。楽しいです。初めての静岡の夏は暑すぎてまいりました。さらにエアコンの温度差にやられました。あと、栄養が足りてないと生活に支障が出るということを少し実感しました。

2学期目に入りましたが、自分の健康を第1に考えて、勉強と遊びとサークルを両立させて楽しみたいです。

自炊頑張ります。一限頑張ります。ボランティアにも参加していこうと思っています。夏は教会に行けなかったのでも冬は行こうと思います。

お久しぶりです

塩見 友樹

From

静岡
&
徳島

島松教会の皆さん、お久しぶりです。塩見友樹です。北海道を旅立つてから、気づけばもう10年近くになりました。滋賀にいたり、名古屋にいたりとうらふらしながら学生をしていたわけですが、この4月でついに長い長い学生期間を終了して、社会人として働くこととなりました。

いったい次はどこに行くことになるんだろうとか、まあなんだかんと言っても、どこに行ってもだれか知り合いがいるんじゃないかなー、とか考えてたら、なんと次は徳島ということでした。さすがに四国は予想外だと思い、周りの人間に徳島について聞いてみたら「ああー、徳島ね、うん。」とか、「徳島ってあれ、四国のどこにあるんだっけ？」みたいな返答しかもらえず、結局何もよくわからないまま徳島に上陸することになりました。

初めての場所、初めての社会生活で、期待4割、不安6割くらいで始まった新生活ですが、ふたを開けてみると、なかなか充実しており、本をひっくり返して必要なことを調べたり、上司に付いて仕事の勉強したり、忙しいながらもそれなりにやりがいを感じ

ております。新人特有の研修で埼玉県のほうに3か月ほど行ったりということもあり、そこでは同期の人たちとも交流を持つことができました。学生が終わると、大変なことばかりで楽しくなくなるのかな、みたいなことを考えてたこともありましたが、いろいろ大変なこともあります。でも私は四国の端っここのほうで楽しくやっています。



編集後記

父、辻中昭一のお別れ会に多くの皆様がご参列下さり、またお祈りに覚えて下さいましたこと感謝申し上げます。特定秘密保護法案の廃案、フィリピン台風被害、東日本を覚え祈ります。て



日本キリスト教団 北海教区 島松伝道所 宣教活動推進募金のお願い

苫小牧地区 島松宣教協力委員会
～ 島松伝道所の歩みを覚えてお支えください ～

募金要領は下記を
ご参照ください

島松伝道所の魅力

新発寒教会牧師 清水和恵

9月、地区間交換講壇礼拝で辻中明子牧師と教会員の方が新発寒教会においでくださいました。辻中牧師の語りの柔らかい「弱さを元手に」というメッセージは心にとてもしみいりました。また、礼拝後の懇談会は、和気あいあいと楽しく交流することができました。礼拝後、新発寒の人が誰ひとり帰らなかったのは、島松のお話をずっと聞いていたかったからでしょう。

島松伝道所と新発寒教会は、その会員数、礼拝出席数、課題や教会の雰囲気もよく似ていると言われたことがあります。辻中明子牧師によると普段着が似合い、共に食べることを大切にしているところも共通しているそうです。もちろん今回、島松の宣教から教えられたこと、励まされたことが沢山ありました。

島松伝道所は魅力のある教会です。そのひとつは「発信力」です。「島松だより」を楽しみに読んでいる方も多いことでしょう。現に「島松だより」を読んで、恵庭に移住を希望した方もおられるのです。島松で教会生活をするためです。もちろん「島松だより」だけではなく、さまざまな形で発信されていますが、それに応答して島松伝道

所とつながりを持ち始める教会がこれまでに多く与えられてきました。その中にはお会いしたこともない多くの方がたが祈りをもって応援し、支えてくださっているそうです。

辻中明子牧師は、それらの出会いを「主がおこした奇跡」と呼んでおられます。主にあるつながりや交わりは、しばしば私たちの思いを遥かに超えた奇跡をもたらすのです。財政的に大変であるのに、会堂建築（再生計画）や隣接地購入も、いつのまにかするすると実現していました。島松は次は何をするのでしょうか・・・？あれこれ思いを膨らませるとワクワクしてきます。「この指とまれ！」と島松伝道所が全国に発信し続けて27年。沢山の人がとまりましたし、その指はどこまでも天国を向いていると思うのです。これからも、いろんなことにチャレンジされていくことでしょう。島松のみなさんと一緒に夢を見ることはとても楽しいに違いありません。

募金に賛同してくださる方々（敬称略・順不同）

久世 そらち【北海教区議長】、笠田 弘樹【同副議長】、
ト部 康之【同書記】、西岡 昌一郎【同宣教委員長】、
日向 恭司【同幹事】、石垣 雅子【弘前学院聖愛高校】、
石田 透【原宿教会】、糸井 国雄【隠退教師】、
岩井 健作【隠退教師】、後宮 敬爾【札幌北光教会】、
宇野 稔【倉敷水島教会】、榎本 栄次【世光教会】、
榎本 恵【アシュラムセンター】、大門 義和【島之内教会】、
岡崎 岳【須磨教会】、鬼形 恵子【横浜英和女学院】、
生地 善人【高崎教会】、上島 一高【今治教会】、
岸本 和世【隠退教師】、久保田 愛策【鹿島教会】、
黒多 健【向島伝道所】、小西 望【仙台北教会】、
小林よう子【箕面教会】、塩見 耕一【北星学園余市高校】、
島 しづ子【名古屋堀川伝道所】、清水 和恵【新発寒教会】、
柴田 もゆる【廿日市教会】、菅根 信彦【神戸教会】、
滝口 宣【単立 所沢教会】、武井 義定【松山古町教会】、
中谷 哲造【隠退教師】、中村 博【隠退教師】、
西尾 市郎【うるま伝道所】、野本 真也【元同志社大学理事長】、
濱田 裕三【広島南部教会】、平田 義【愛隣館ディケアセンター所長】、
平方 美代子【隠退教師】、府上 征三【コドモのイエ幼稚園】、
藤田 公【隠退教師】、藤本 真【浜坂教会】、
真砂 良克【大津教会】、宮島 利光【隠退教師】、
森脇 忠雄【隠退教師】、山本 真司【同志社国際高校】、
横田 法子【札幌元町教会】、

募 金 要 領

- 募金目標額：3,500,000円
- 募金期間：第六期 5年間
(2012年～2016年)
- 献金方法：月毎・年毎・随時
- 郵便振替口座送金先：
02750-1-19793
日本基督教団島松伝道所